

「らくらく ねりしっくい」 下地処理の仕方



〈プリント合板下地写真〉

## ○プリント合板下地の場合

### 1. 下地の確認

汚れの状況、板がしっかり固定されているか（下地の動き）を確認する。

#### ・汚れについて

**雑巾などで中性洗剤などを使用して汚れをとる。** どうしてもとれない頑固に汚れている箇所では油分以外は放置しても良い。油分は将来接着力を低下させるのでほぼ完全に除去する（部分的に残る分は可）。

＜目的＞下地の汚れがしっくいに混ざる事で、しっくいの色が汚れる事を防ぐため。

#### ・下地の動きについて

釘が抜けていたり接着剤が弱くなっている場合は、手で合板を押すと簡単に板が動く。その場合はひび割れ防止のため**木ネジで固定**する。（ねりしっくいはネジにも塗れます）

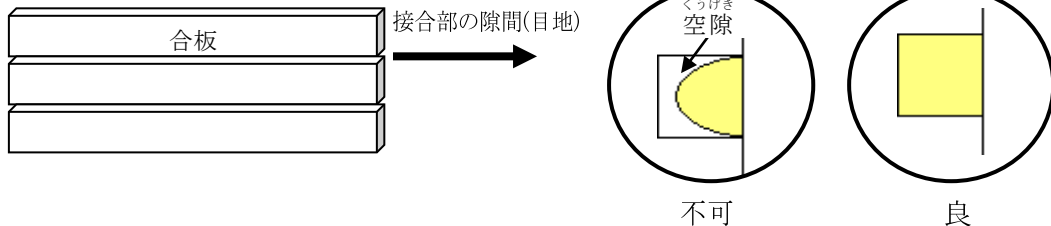
＜目的＞しっくいの塗り厚みは1ミリ前後のため下地が動くとその動きに追従してひび割れを起こすため。

### 2. 目地処理方法

- ・プリント合板の接合部のすきま（目地と仮称する）に目地詰め用材料が十分に充填されていないと材料の乾燥収縮によって将来目地に沿ってひび割れが発生する可能性がある。図-1を参照の上**ゴムへら・柔らかいコテなど腰のある道具で十分に充填する**。その際の材料は少し固めの材料にする。ねりしっくいの場合は袋から取り出して5～10分程度袋の外にだせば適度な水分が蒸発して硬くなる。

＜目的＞下地の目地に沿ったひび割れ防止。

【図-1】



### 3. 下地処理方法（全面）

- ・下地がプリント合板のためスポンジなどで塗っても接着力が確保されにくいいため、**腰のあるゴムへら・柔らかいコテで刷り込むように薄く**（下地の色が見えても可）**塗り乾燥**させる。薄く塗った場合は約2～3時間で表面が乾燥する。

<目的>プリント合板への接着力の増強および下地の汚れを押さえ込む。

#### 4. 仕上げ方法

薄く塗った下地に霧吹きなどで湿らせると塗りやすくなります。室温15～20℃であれば30分位は手直しができますが、スポンジで叩いて出す模様は早め（材料の表面がかたくなる前）に施工してください。いずれにせよ目立たない場所で予備施工の上、仕上がり具合を確認してください。

[参考までに]

##### 1. 使用前の注意

保管状態によっては疑凝結（固まったようにみえる事）する場合がありますので、使用前に**袋ごと手で揉みほぐして柔らかさを均一**にしてください。

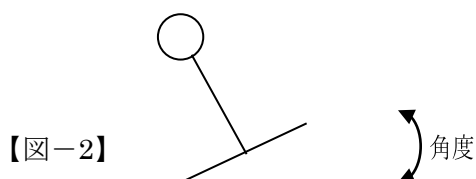
らくらく ねりしっくい完全既調合ですが、セメント、珪藻土などと違ってしっくいは炭酸ガスと反応して固まるため、作業中に材料を放置して硬くなった場合または柔らかい材料が好きな人は作業用の水（柔らかくするための水）を少量追加しても物性に悪影響を与えません。

##### 2. 塗り厚みの調整

図-2のように**接地面との角度と力によって塗り厚みが調整**できます。

**薄く塗る場合は角度を大きく**して力を入れると薄くなります。

**厚く塗る場合は角度を小さく**して、ほど良い力で（これが難しい）塗ると厚くぬれます。また、厚く塗った直後にコテを少し浮かして引っ張ると絶妙なデザインができます。本施工の前にコテと遊んでみてください。



【図-2】



ゴムベラ

コテとコテ板

##### 3. メンテナンス

しっくいは無機質のため不燃材です。また、同様の理由でビニールクロスなどと違って静電気を発生しないため埃が付きにくくなります。通常は「はたき」などで埃を落としてください。また、汚れたり、傷がついた場合は残った材料を上**塗り重ねても色が変わりません**。

**ご自分の納得・満足する作品(壁)が出来上がることを心よりお祈り申し上げます。**

## ○内装：クロス・壁紙などの下地の場合

### ●クロスの継ぎ目等が剥がれて浮いている場合

1. 手でゆっくりと浮いているクロスを剥がして下さい。
2. もう剥がれないと思ったらカッターナイフなどで壁に沿ってクロスを切り取って下さい。その際下地を傷つけないよう注意して下さい。  
下地がコンクリートの場合も同様です。
3. クロスの下地が石膏ボード、コンパネ（ベニヤ板）であれば切り取られたクロスの周辺をホッチキスなどで固定してください。  
※剥がれにくいクロスの裏紙は霧吹き等で水をかけて湿らした後剥がすときれいに取れます。

### ●多少汚れを感じるクロス

1. 天井には、ほこり・タバコのヤニ・油等がついています。  
汚れが指に付かなくなるまで中性洗剤等で汚れを落として下さい。  
壁面の場合は、油が手につかなければ多少の汚れは気にしなくても大丈夫です。  
※台所付近の天井のクロスは特に念入りにチェックし油分を落としてください。
2. これらをチェックして家族みんなで楽しいデザインを考えて「らくらくねりしっくい」を塗りましょう。

## ○内装：繊維壁・砂壁などの下地の場合

### ●指でこすってボロボロ落ちてくる場合

1. 霧吹きで水をかけて塗ってある繊維壁・砂壁を柔らかくして下さい。
2. 繊維壁・砂壁が浮いてきたら皮スキやスクレーパー等で丁寧に除去して下さい。
3. 頑固にくっついてどうしても剥がせない部分は無理に剥がそうとすると下地にキズをつけやすいのでそのままにしてください。
4. a-2でほとんど除去（下地にうすく残っている状態）できたら「らくらくねりしっくい」を塗って下さい。  
※下地の汚れやシミが目立つ場合などは、アク止めシーラー処理をする方法もあります。

### ●爪などで削っても しっかりくっついている場合

1. 霧吹きで水をかけて塗ってある繊維壁・砂壁を柔らかくなるか確認して下さい。

2. 水をかけても柔らかくならず、また水をはじく場合は下記の手順で作業してください。
3. 剥がれにくい部分を重点的に「らくらくねりしっくい」をゴムへら・コテなどで薄く伸ばすようにコスリつけて下さい。  
季節によりますが生乾きの状態で、汚れのシミが浮き出ているかどうか確認して、シミなどが出ている場合は、施工しようとする全面を同様に「らくらくねりしっくい」をコスリつけて下さい。  
シミが浮き出た場合は2～3日たってから同じ処理を繰り返して汚れを固めて下さい。
4. シミが浮き出て処理をした部分で異常（浮き、はがれ）が無ければ、自由に塗って下さい。  
※その際、下地（下塗り）が十分に乾燥していると塗りにくいのでハケ等で水をうすく塗って下さい。乾燥収縮が激しい為、水湿し作業をするとヒビ割れ防止に繋がります。

### ○内装：石膏ボード・ベニアなどの下地の場合

1. 下地の確認（石膏ボード・ベニアの取り付けを確認する。）  
ボード緊結状態（揺れ等）、突合せ（ジョイント部）の段差、釘の凹凸などを確認してください。  
釘やビスが出ている場合は金づちで叩いて平らにしてください。
2. ジョイント部分の処理  
グラスファイバーテープなどを貼り付け、テープの上を「らくらくねりしっくい」もしくは、ジョイント専用材等で補強処理してください。  
下地がベニア（コンパネ）の場合はテープを張る前にアク止めなどのシーラー処理を行ってください。  
塗りこんだ材料が十分に乾燥・硬化してから次工程に移ってください。  
**注意：色しっくい**施工の場合は、ジョイント部分での水引きが違う場合が多いので乾燥後にジョイント部だけ色が濃くなる場合があります。
3. 仕上げ塗り  
「らくらくねりしっくい」を袋ごと手で揉んで柔らかくしてください。  
柔らかくした材料で下地に薄くこするようシゴキ塗りをして追っかけて仕上げ塗りをしてください。

#### 4. その他

仕上げ面を手で触れても汚れない状態になるには約半日かかります。

成分の消石灰は空気中の炭酸ガスの量によって硬化時間が変化するため季節や住環境に応じた乾燥時間をとって下さい。

### 職人さんのアドバイス

「らくらくねりしっくい」は、ほとんどの下地に接着しますが、その下地がボロボロだったり浮いたり剥がれていれば、下地と一緒に剥がれたり色が変わったりします。

また、油で汚れていればいくら優れものの「らくらくねりしっくい」といっても接着しにくくなります。

お化粧と同じで下地の作り方が大事です。

ここでは、内装下地処理の仕方を種類ごとにお伝えしましたが個々によって住環境や作業する季節も違うので、あくまで参考としてください。



うまく塗り替えるコツは下地処理にあり！！

#### 使用上の注意

- 塗りつける下地により色が少し変わる可能性があるので、事前に見えない場所で少量を塗り、乾いた色を確認してください。
- 材料が硬いと感じたら袋ごと手で揉んで下さい。
- 塗りつけようとする場所の周辺を新聞紙、養生シート、養生テープで養生して下さい。
- 使用後あまった材料は空気に触れないよう輪ゴム・クリップなどでしっかり縛ってください。
- 施工完了後は直ちにコテなどの道具を水洗いして下さい。
- 洋服についた場合は、汚れが落ちにくいので注意して施工して下さい。